

11

床下浸水開始時における住民の危機意識・対応行動

本章では、東海豪雨災害時において、自宅周辺の冠水や自宅の床下が浸水し始めた時点での住民の危機意識ならびに対応行動の実態について把握していく。なお、本章における集計の内容や手法は9章および10章と同様である。

11.1 床下浸水開始時の住民の所在

図 11-1-1 は、床下浸水開始時における住民の所在を示したものである。

- ・西枇杷島町ではおよそ 65%の住民が、その他の地域については約 75%の住民が、床下浸水開始時において自宅にいたとの回答を示している。
- ・前章の避難勧告発令時における住民の所在と比較すると、避難先にいたとする住民の割合が多くなっている。特に西枇杷島町では 24%の回答者が、名古屋市西区では 15%の回答者が避難先にいたとの回答を示している。

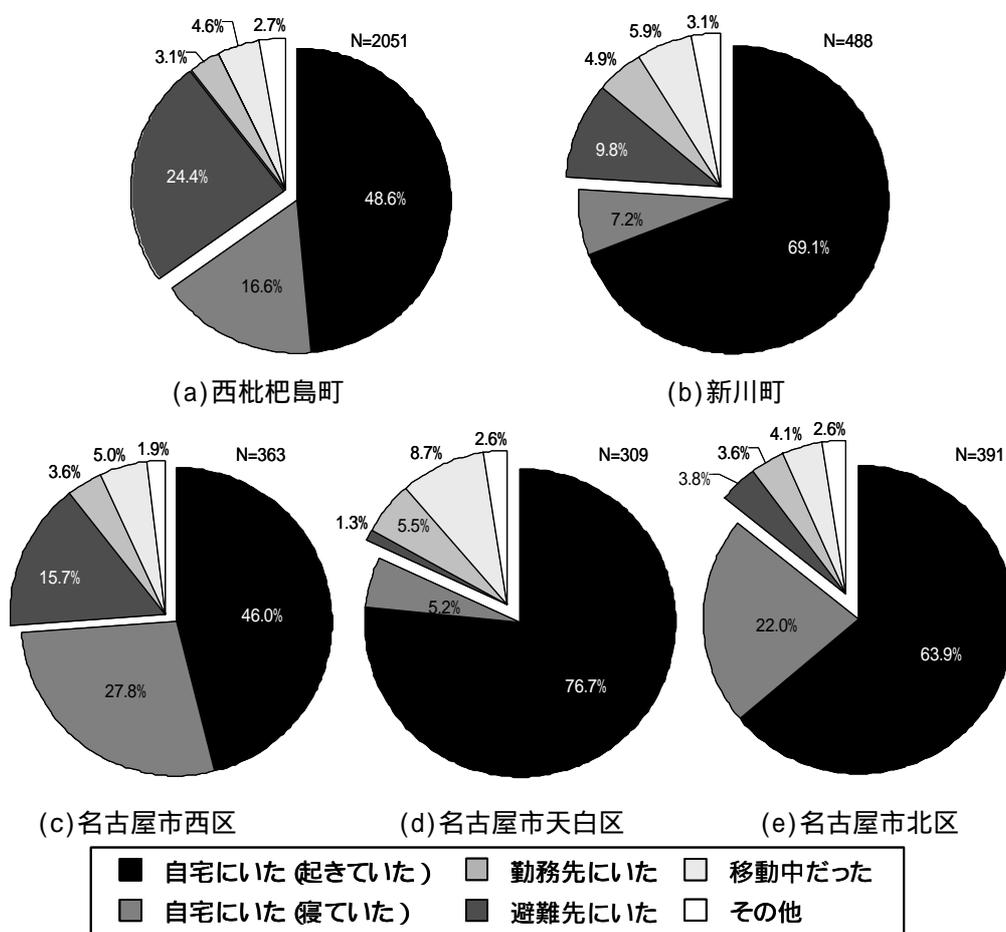


図 11-1-1 床下浸水開始時の住民の所在

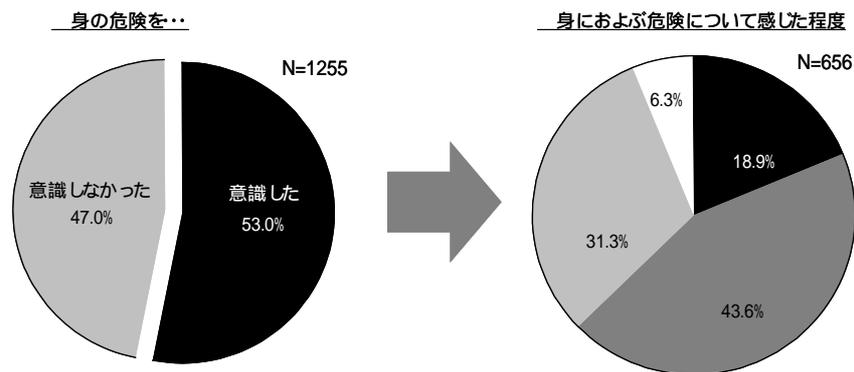
11.2 床下浸水開始時における住民の危機意識の実態

Point

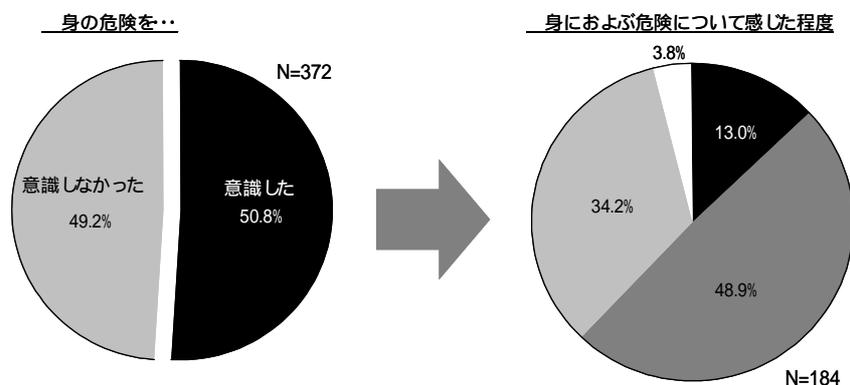
- ・床下浸水開始時において、身の危険を意識した住民の割合は半数程度である。
- ・身の危険を意識した住民の約60%は身の危険を感じているが、反面、身の危険を感じなかった住民も相当数存在している。

床下浸水開始時における住民の危機意識の実態を図11-2-1および図11-2-2に示す。なお、以後の集計、分析は、ここで自宅にいたと回答を示した住民を対象として行うこととし、自宅にいた住民の危機意識ならびに対応行動の実態を把握していく。

- ・全地域に共通して、およそ半数の住民が身におよぶ危険を意識したと回答を示していることがわかる。
- ・身に及ぶ危険を意識したという住民については、(d)名古屋市天白区、(e)名古屋市北区ではその約70%、その他の地域では約60%が身の危険を感じたとしているが、意識した上で身の危険は感じなかったという住民が、自宅の床下浸水が開始した段階においても相当数存在していたことがわかる。



(a)西枇杷島町

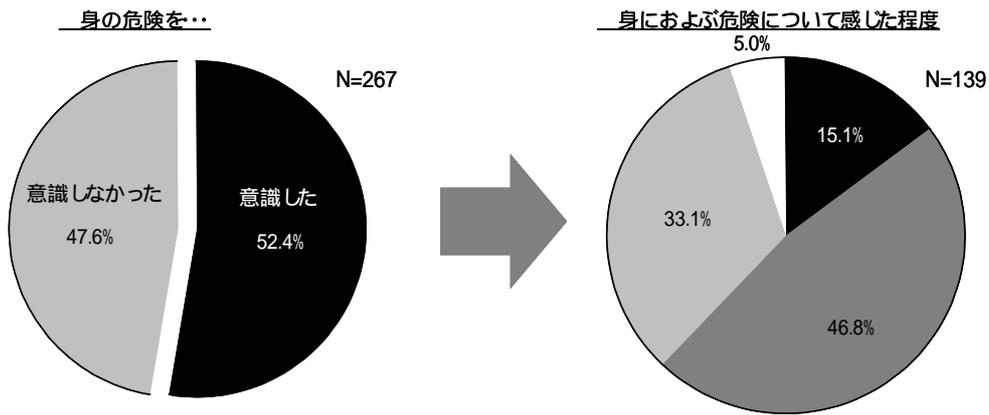


(b)新川町

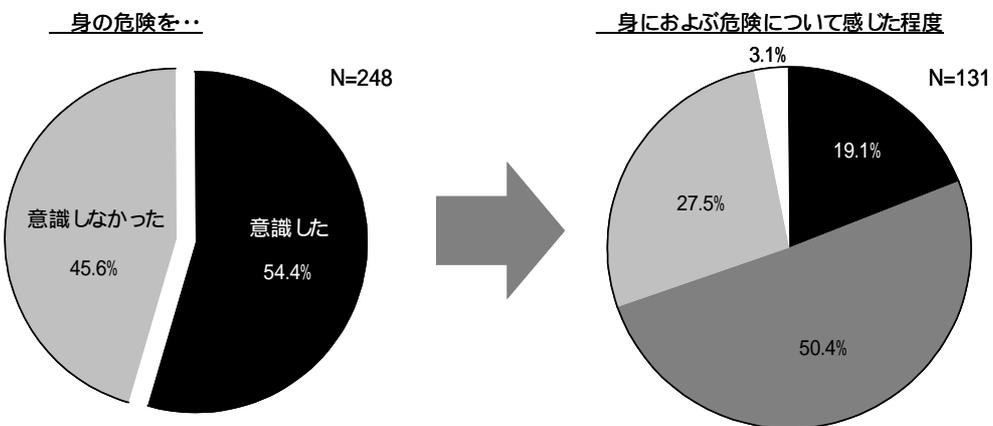
身におよぶ危険について感じた程度 凡例

- | | |
|--------------|-------------------|
| ■ 身の危険を強く感じた | ■ 身の危険をほとんど感じなかった |
| ■ 身の危険を感じた | □ 身の危険を全く感じなかった |

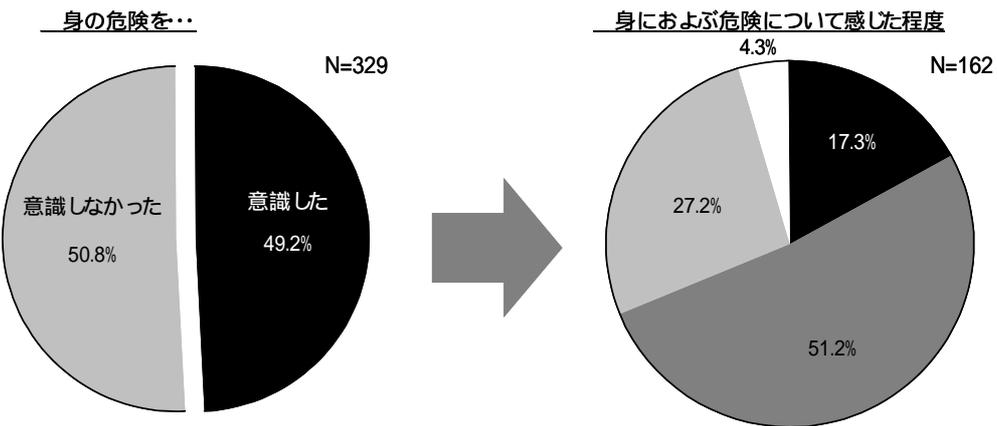
図 11-2-1 床下浸水開始時の住民の危機意識



(c)名古屋市西区



(d)名古屋市天白区



(e)名古屋市北区

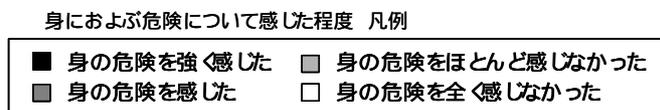


図 11-2-2 床下浸水開始時の住民の危機意識

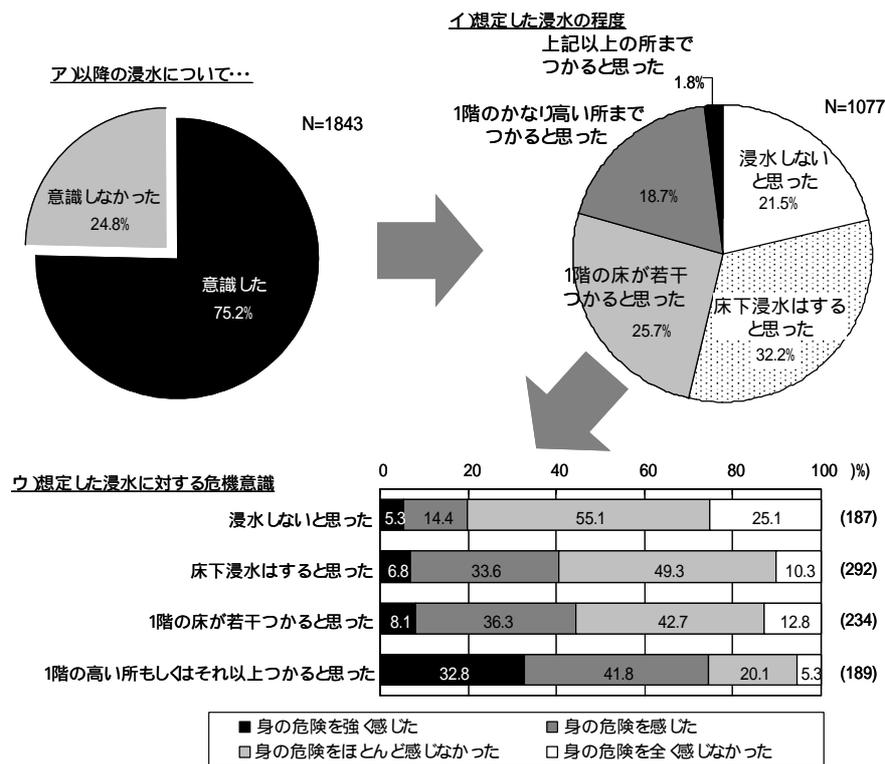
11.3 床下浸水開始時における以後の事態想定とそれに対する危機意識の実態

Point

- ・自宅の周辺が冠水もしくは自宅が床下浸水し始めたという状況にも関わらず、20%程度の住民は以後の浸水に関し意識しなかったと回答を示している。
- ・以後の浸水を意識した住民でも、その半数以上は、自宅は浸水しないもしくは床下浸水程度の被害しか想定していなかった。

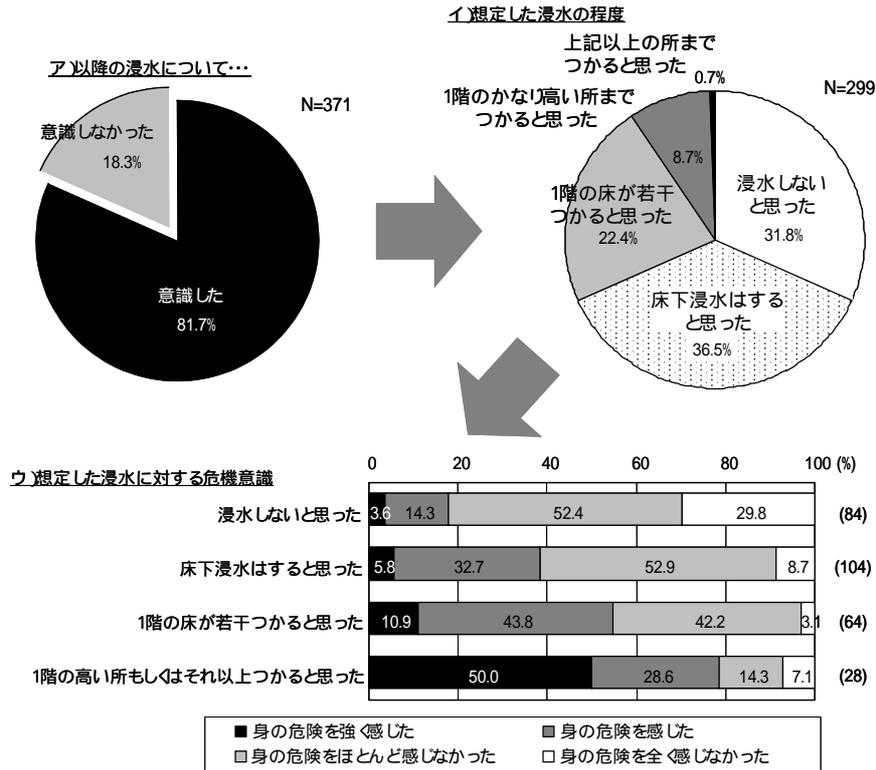
図 11-3-1 ~ 図 11-3-3 は、床下浸水開始時における以後の浸水に関する事態想定とそれに対する危機意識の実態について、地域別に集計したものである。

- ・各図のア) について見ると、全地域において、自宅の周辺が冠水もしくは自宅が床下浸水した状況にも関わらず、およそ 20% の住民は以後の自宅の浸水に対し意識しなかったと回答を示している。
- ・各図のイ) についてみると、以後の浸水を意識したとする住民でも、その半数以上は自宅は浸水しないもしくは床下程度の被害しか想定していなかったことが読みとれる。

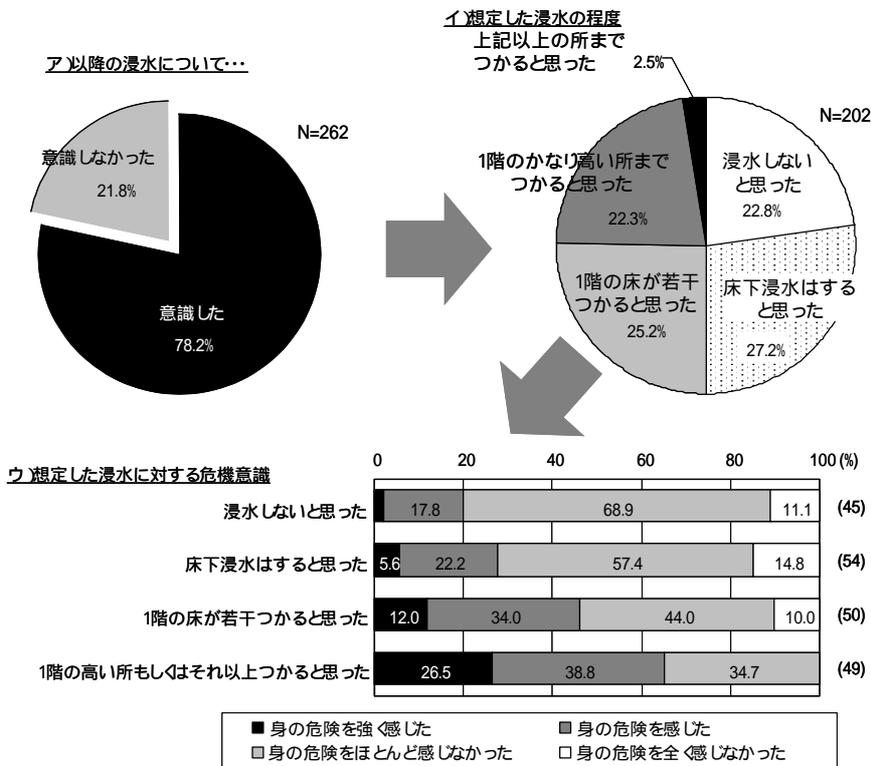


(a) 西枇杷島町

図 11-3-1 床下浸水開始時における以後の浸水に関する事態想定とそれに対する危機意識

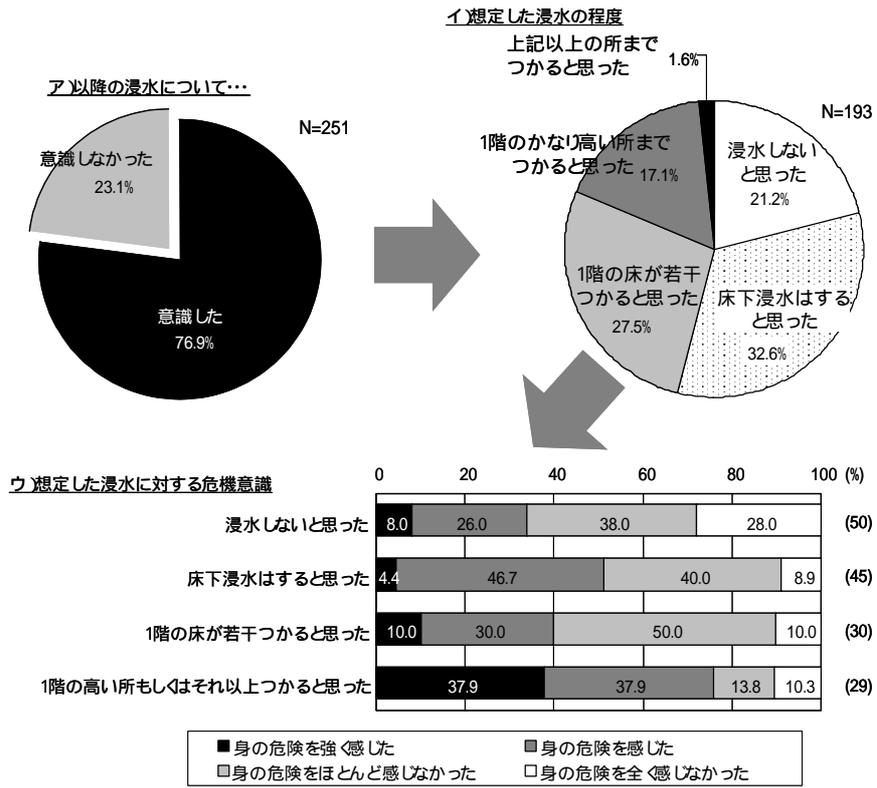


(b) 新川町

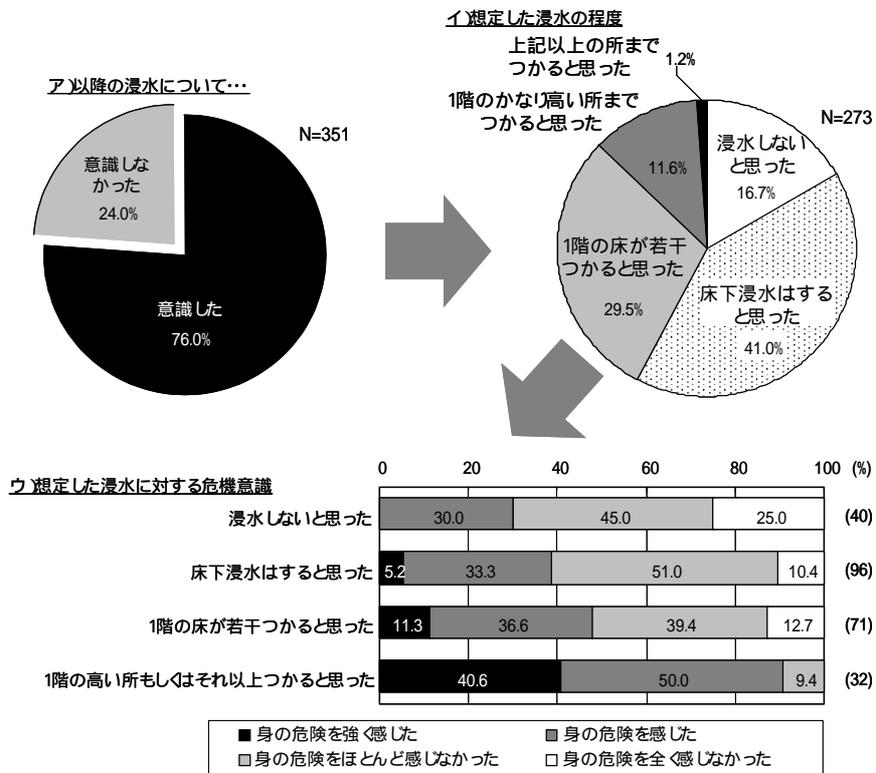


(c) 名古屋市西区

図 11-3-2 床下浸水開始時における以後の浸水に関する事態想定とそれに対する危機意識



(d) 名古屋市天白区



(e) 名古屋市北区

図 11-3-3 床下浸水開始時における以後の浸水に関する事態想定とそれに対する危機意識

11.4 床下浸水開始時における避難の必要性に対する意識の実態

Point

- ・自宅周辺の冠水もしくは自宅の床下浸水開始時において、避難の必要性を意識した住民は半数程度であり、そのうち避難の必要性を感じた住民の割合はおよそ60%である。

自宅周辺の冠水もしくは自宅の床下浸水開始時における避難の必要性に対する意識の実態を図11-4-1および図11-4-2に示す。

- ・全地域において、この時点で避難の必要性を意識したとする住民は半数程度であり、そのうち避難の必要性を感じた住民は約60%であったことがわかる。

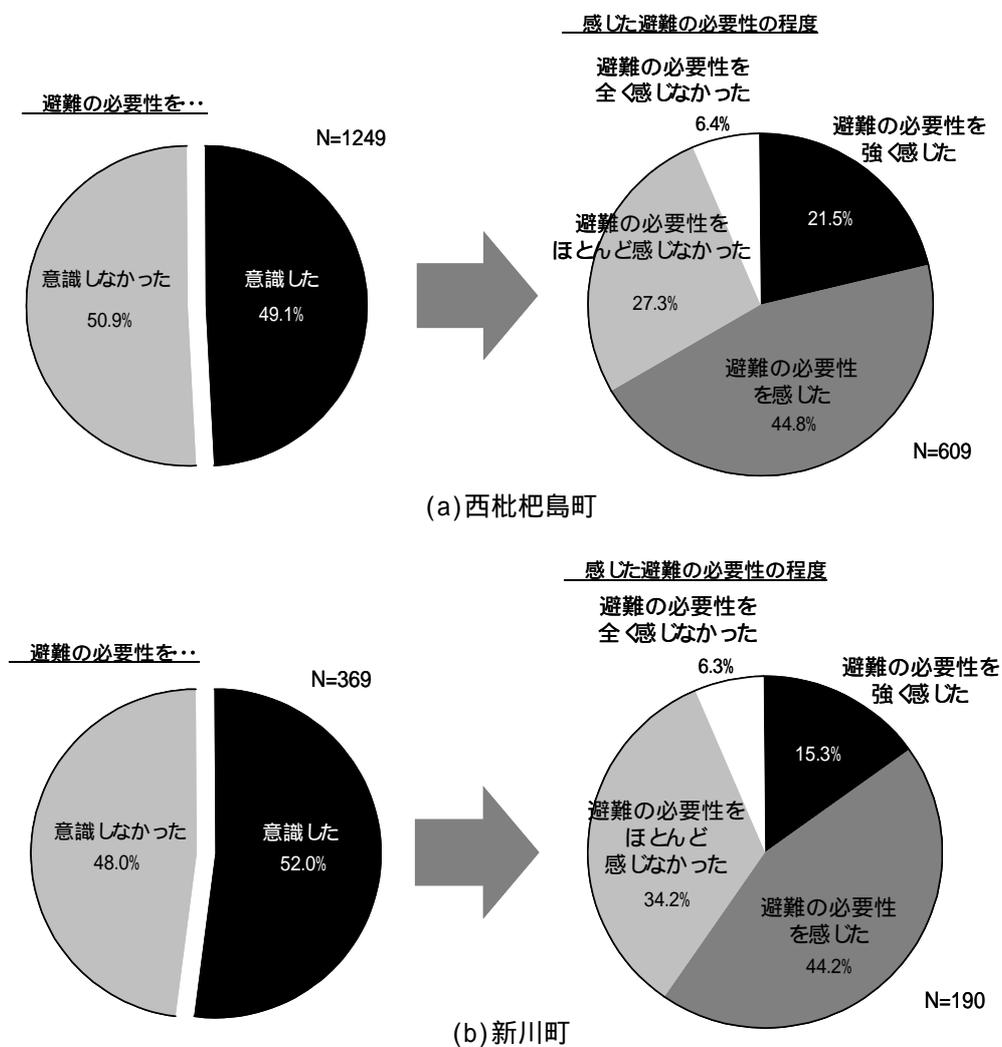


図 11-4-1 床下浸水開始時における避難の必要性に対する意識

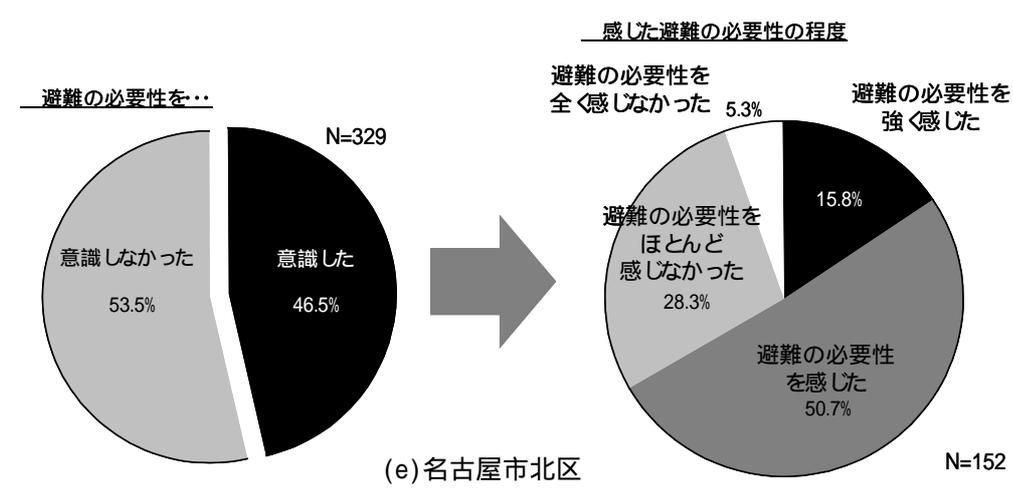
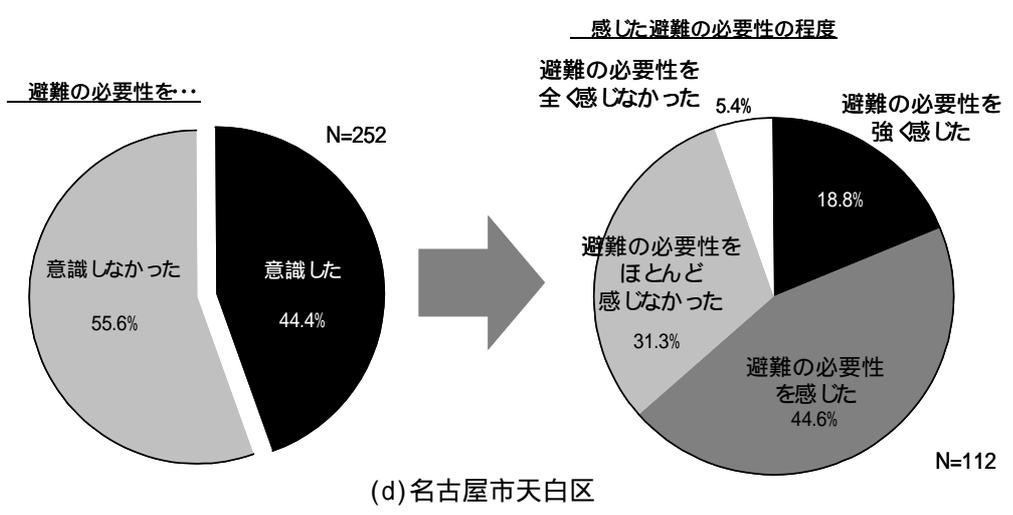
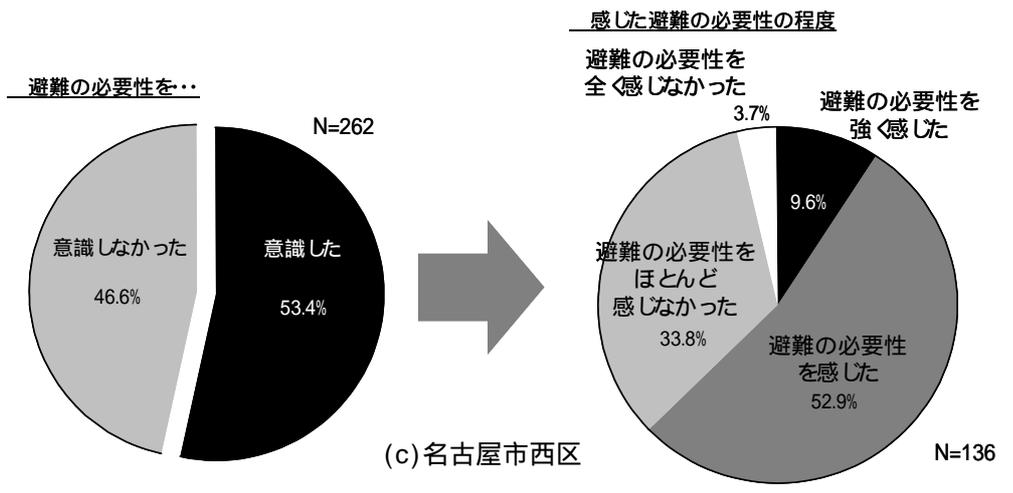
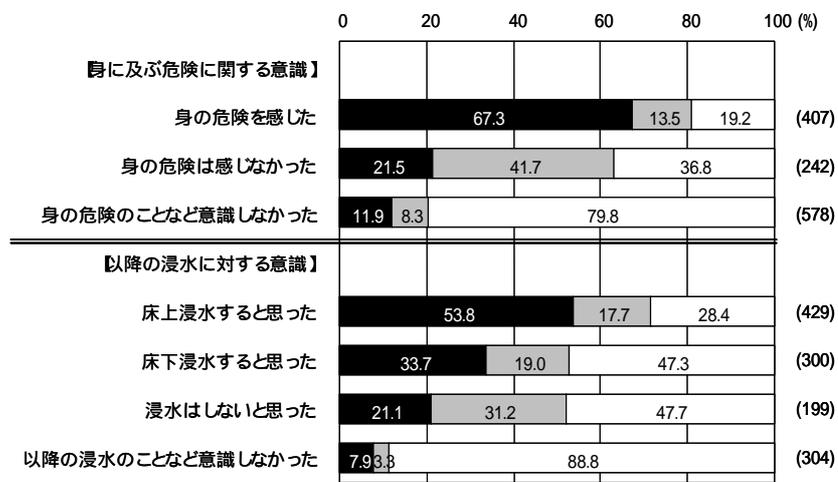


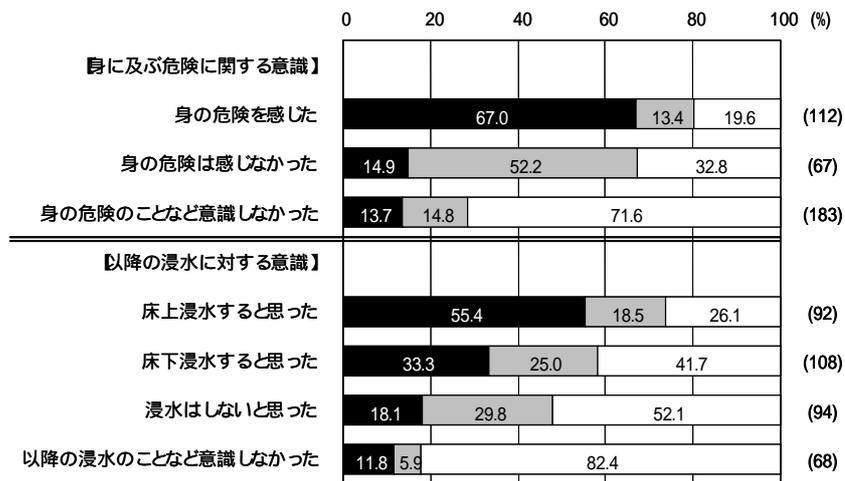
図 11-4-2 床下浸水開始時における避難の必要性に対する意識

避難の必要性に対する意識と危機意識、以後の浸水に対する事後想定との関係を図 11-4-3 および図 11-4-4 にそれぞれ示す。

- ・床下浸水開始時において身の危険や、以後の浸水に関して意識しなかった住民については、そのほとんどが避難の必要性についても意識していなかったことが読みとれる。このことから、危機意識と避難の必要性には連動性があるものと推察される。



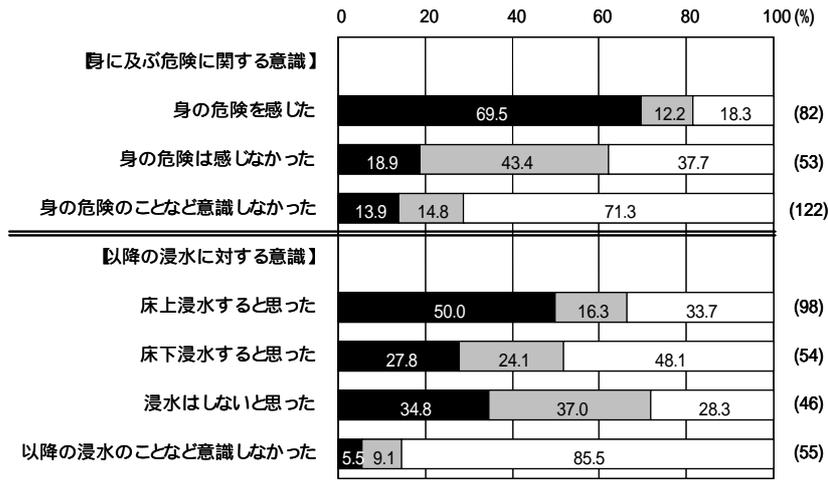
(a) 西枇杷島町



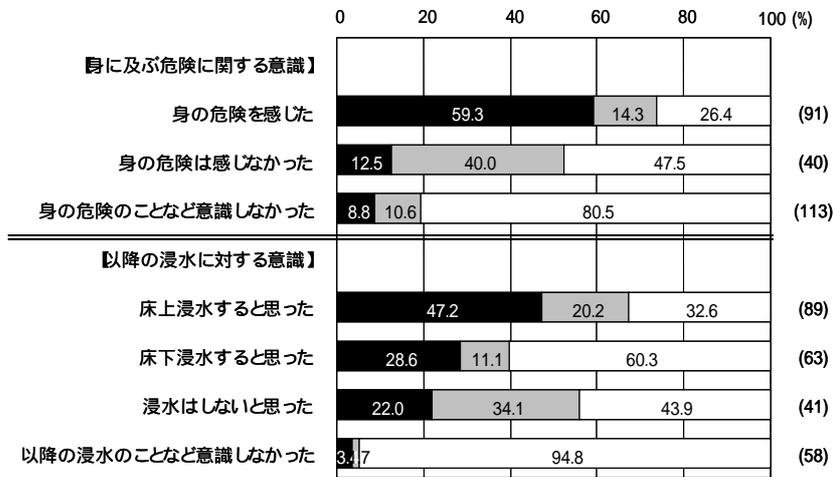
(b) 新川町

■ 避難の必要性を感じた □ 避難の必要性を感じなかった □ 避難の必要性のことなど意識しなかった

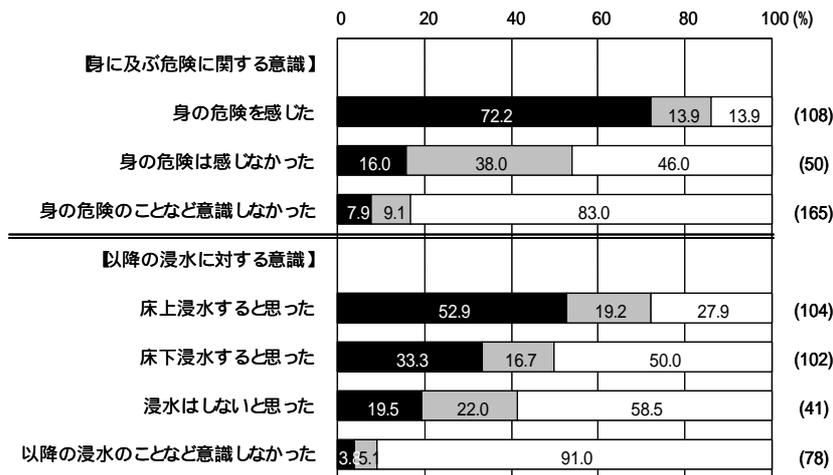
図 11-4-3 床下浸水開始時における避難の必要性認識と危機意識、以後の事態想定との関係



(c) 名古屋市西区



(d) 名古屋市天白区



(e) 名古屋市北区

■避難の必要性を感じた □避難の必要性は感じなかった □避難の必要性のことなど意識しなかった

図 11-4-4 床下浸水開始時における避難の必要性認識と危機意識、以後の事態想定との関係

11.5 床下浸水開始時における住民の水害に対する対応行動

Point

- ・床下浸水開始時において、住民自らによる状況確認行動は活発に行われていた。
- ・避難の準備を行ったとする住民は相当数存在するが、実際に避難を行った住民は少数である。
- ・西枇杷島町、名古屋市西区においては、他の3地区と比較して家財・家屋保全行動を行ったとする世帯の割合が少ない。

図 11-5-1～図 11-5-5 は、自宅周辺の冠水もしくは自宅の床下浸水開始時における住民の対応行動の実態を、地域別に見たものである。

- ・全地域におけるほとんどの住民が何らかの対応行動を行ったと回答しており、そのなかでも外の様子の確認、テレビ・ラジオなどによる状況の確認、近所の人との情報交換などが積極的に行われていたことがわかる。
- ・(d)名古屋市天白区では、他の地域と比較して避難や避難の準備行動を行ったとする住民の割合が少なく、この段階で避難をしたとする住民の割合は4%にとどまっている。一方で、他の4地域においては、避難の準備を行ったとする住民は相当数存在するが、実際に避難をしたとする住民は10%前後にとどまっている。
- ・(a)西枇杷島町、(c)名古屋市西区では、他の3地域と比較して家財や家屋などの保全を行ったとする世帯が少なく、特に名古屋市西区においては、行ったとする世帯は40%程度である。

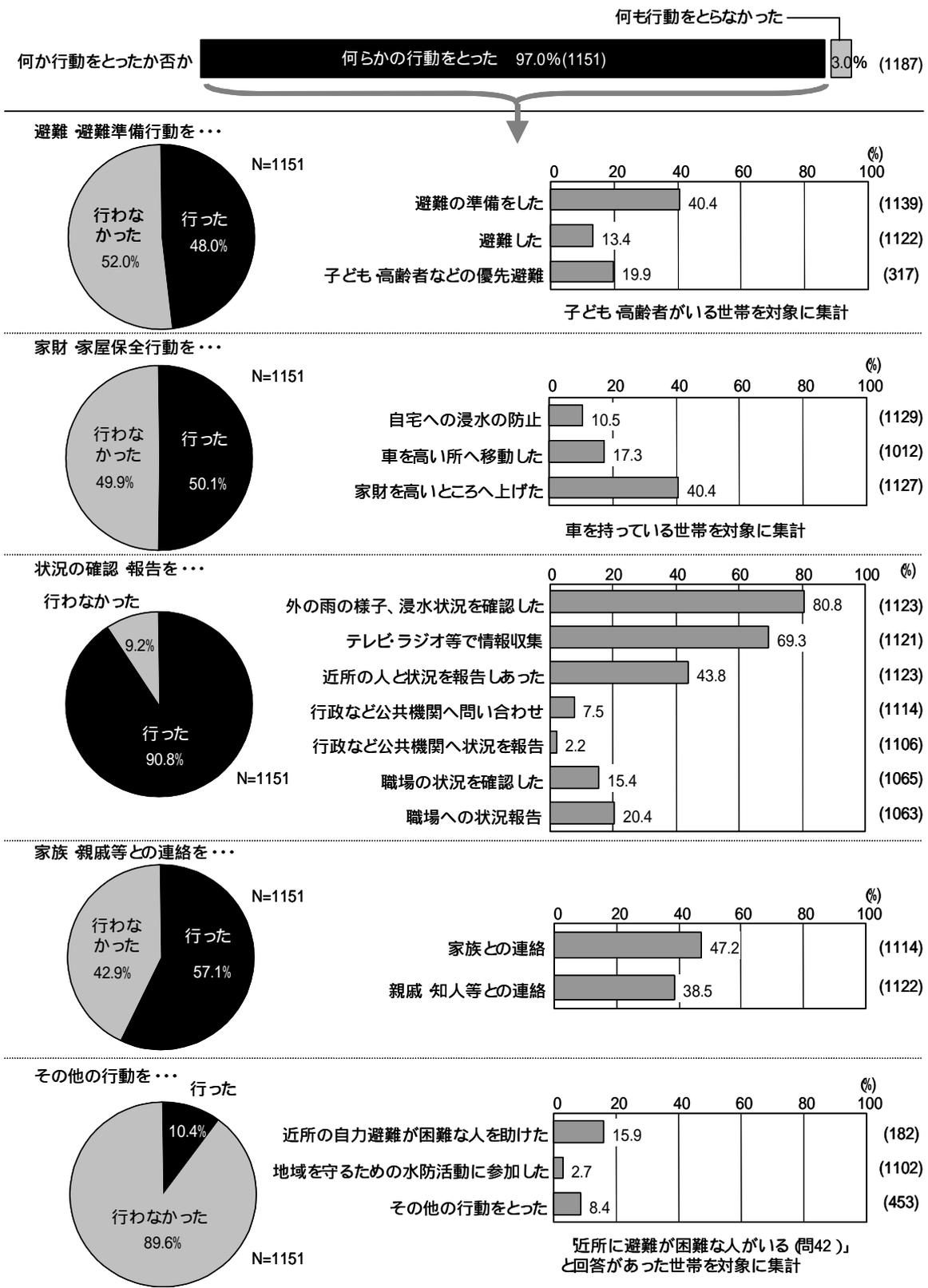


図 11-5-1 床下浸水開始時における住民の対応行動 (西枇杷島町)

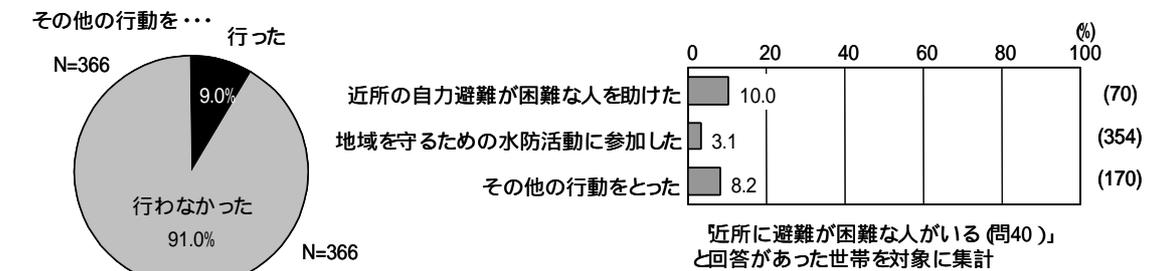
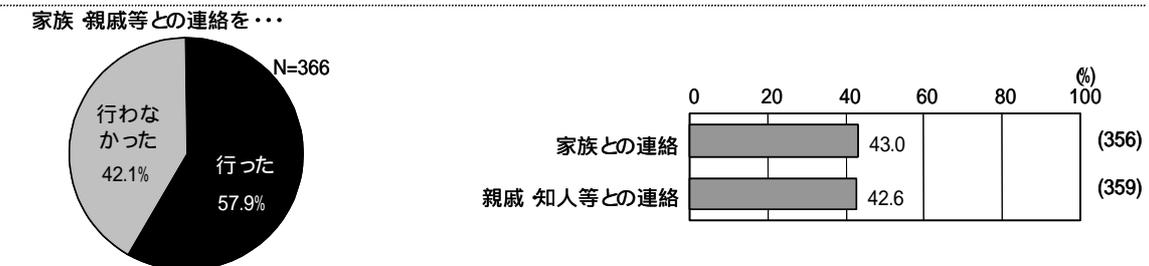
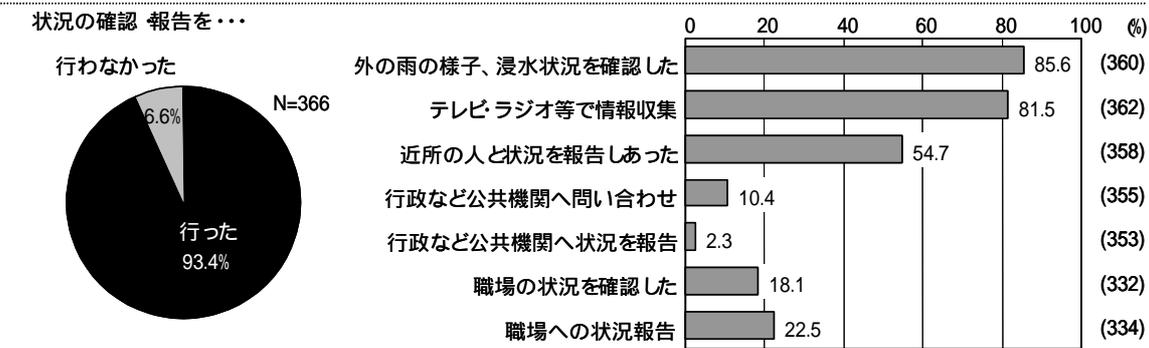
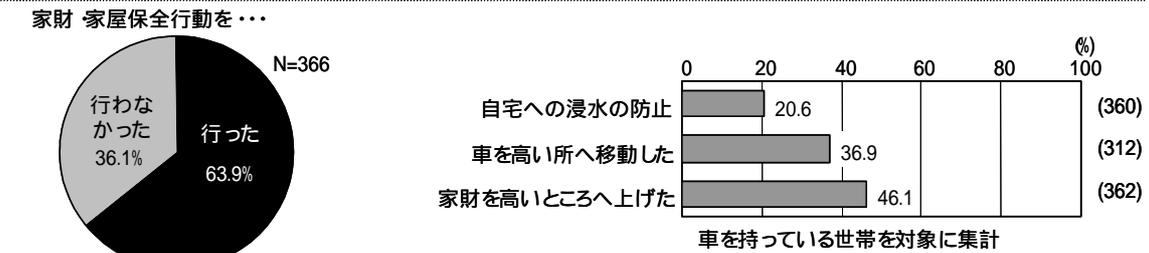
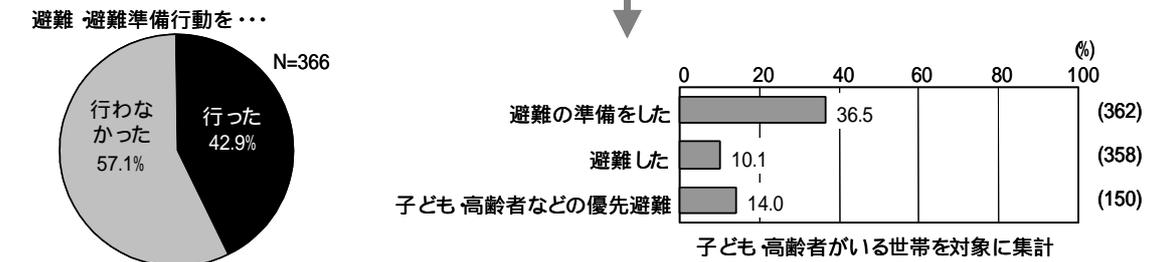


図 11-5-2 床下浸水開始時における住民の対応行動（新川町）

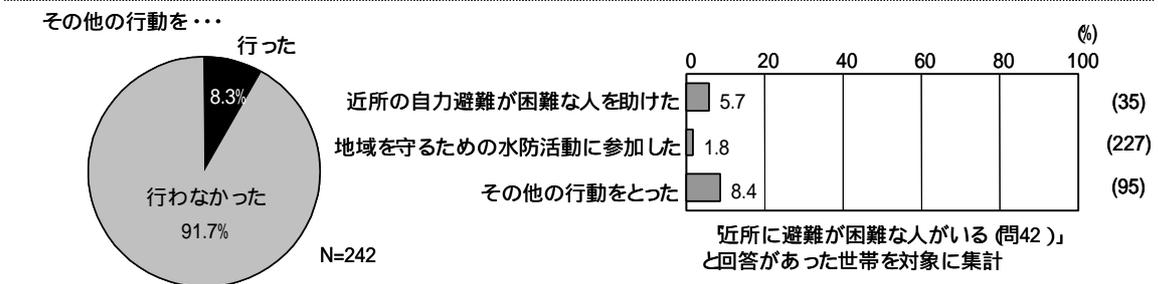
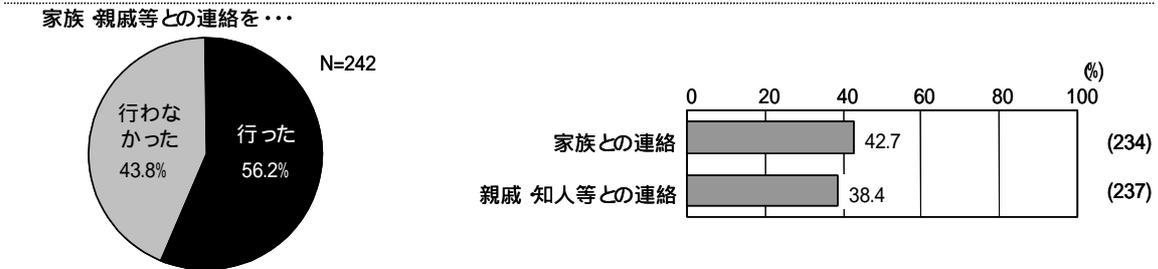
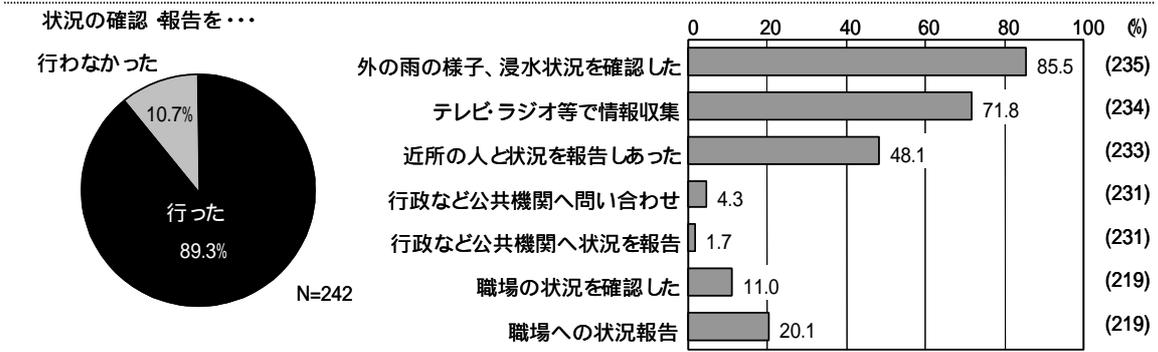
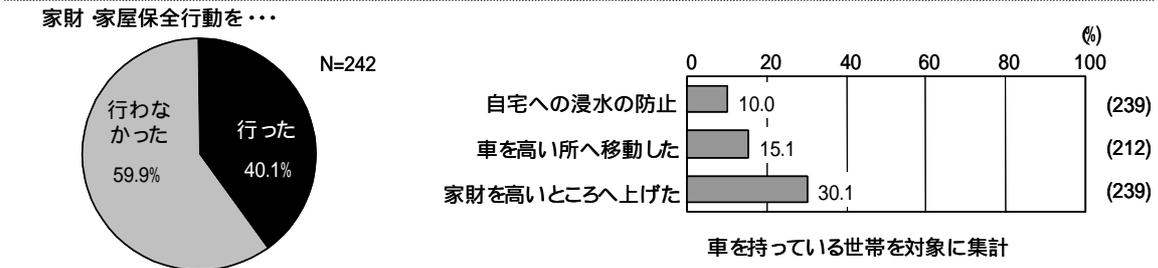
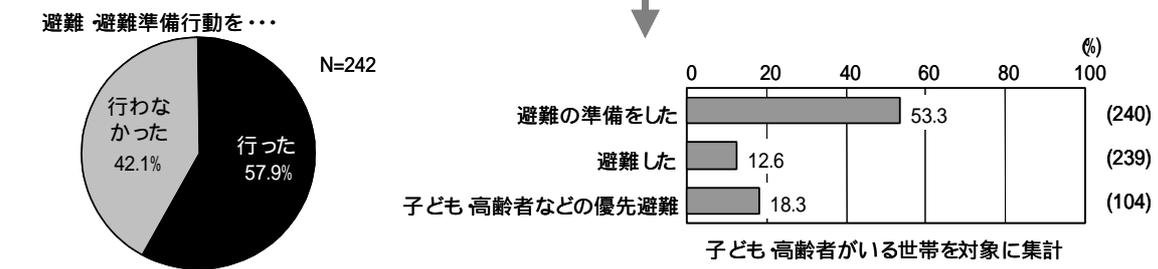


図 11-5-3 床下浸水開始時における住民の対応行動 (名古屋市西区)

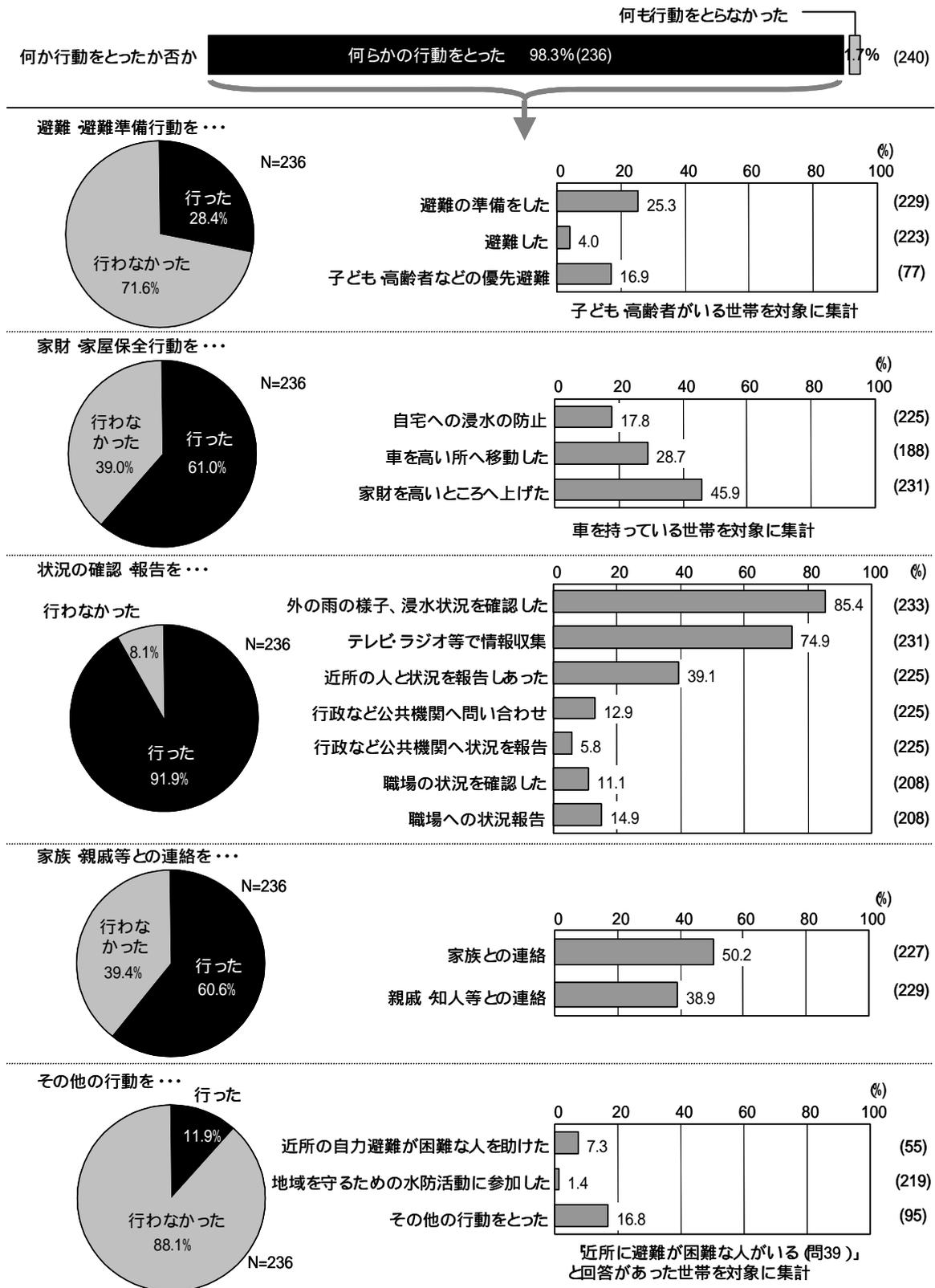
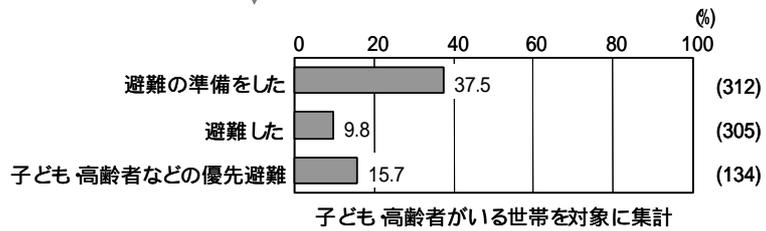
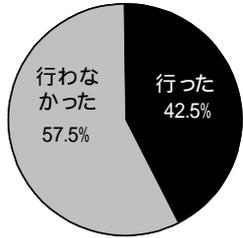


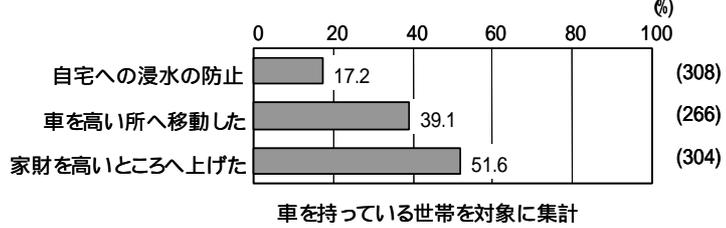
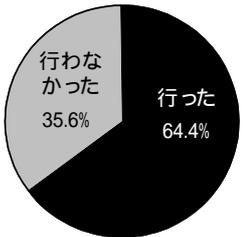
図 11-5-4 床下浸水開始時における住民の対応行動（名古屋市天白区）



避難・避難準備行動を...

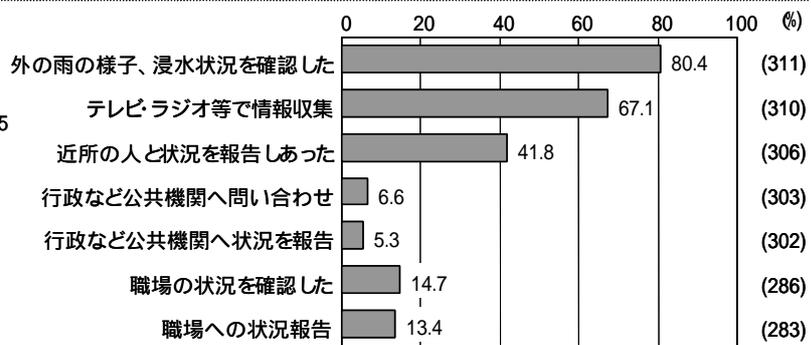
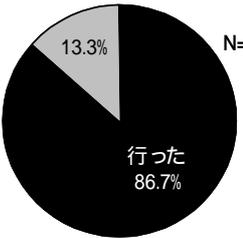


家財・家屋保全行動を...

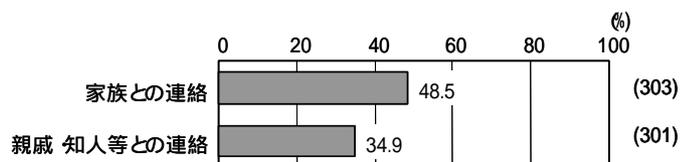
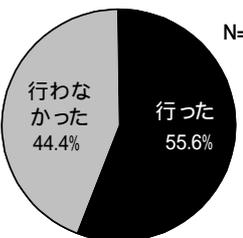


状況の確認 報告を...

行わなかった



家族 親戚等との連絡を...



その他の行動を...

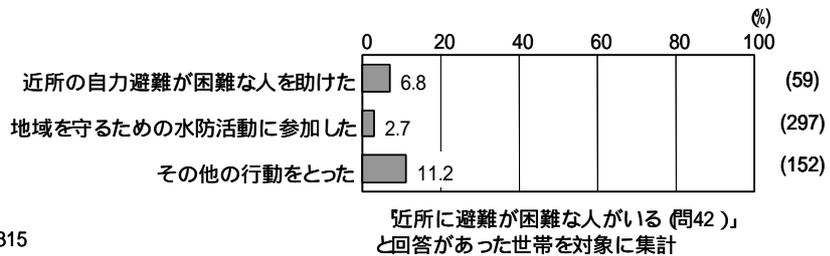
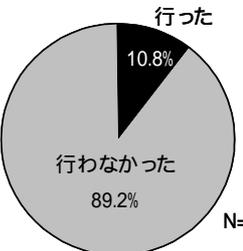


図 11-5-5 床下浸水開始時における住民の対応行動 (名古屋市北区)

11.6 床下浸水開始時における避難（経路）に対する危険意識の実態

Point ・床下浸水開始時において、家の外を歩くことに多くの住民は危険を感じていた。

図 11-6-1 は、自宅床下浸水時において避難するなど外を歩くことに対する住民の危機意識を示したものである。

- ・自宅の床下浸水開始時においては、全地域ともに 75%以上の住民が外を歩くことに対して危険を感じていたことがわかる。特に、(d)名古屋市天白区においては、90%以上もの住民が危険を感じており、徒歩による避難は極めて困難な状況であったことがここから伺える。

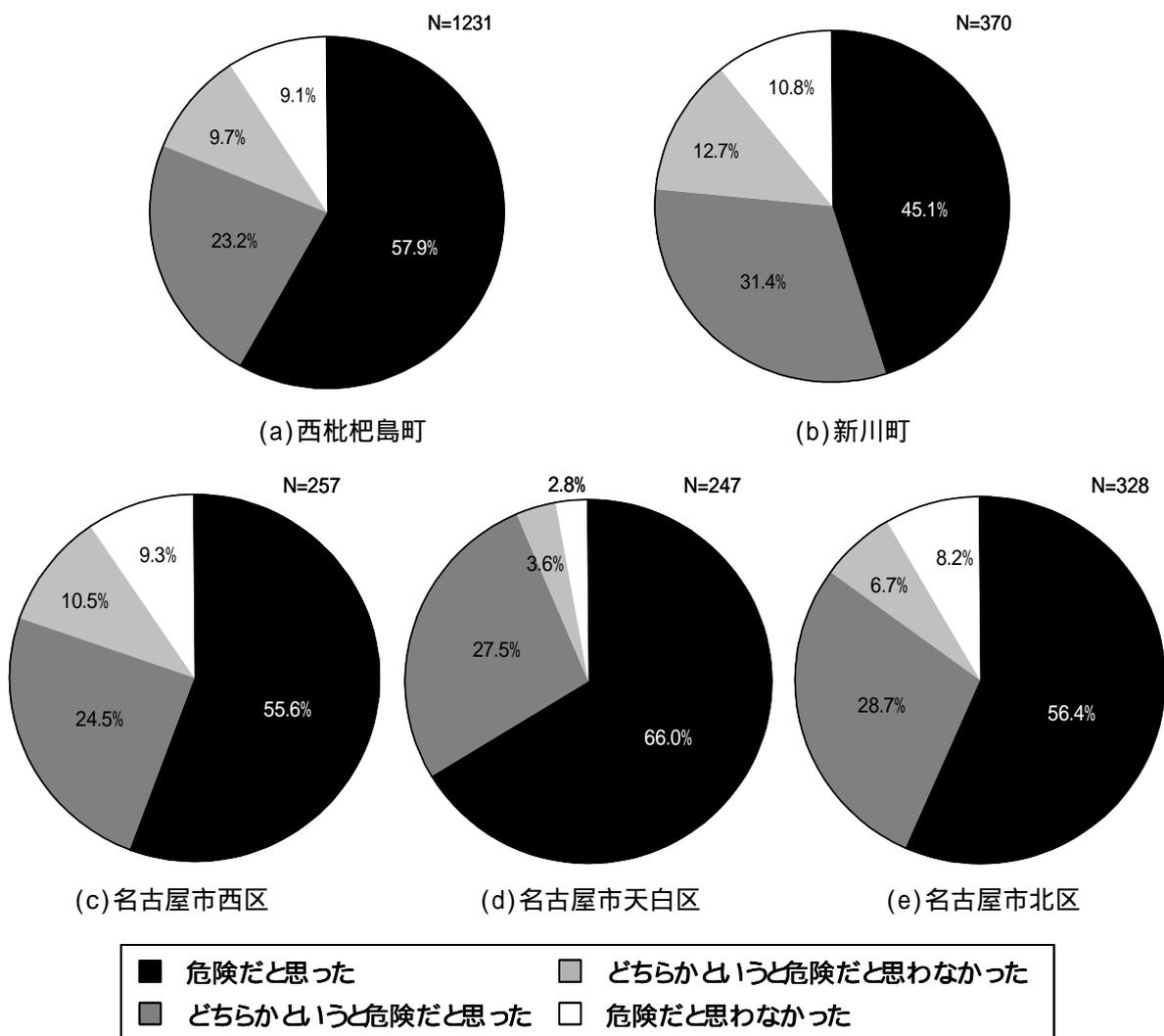


図 11-6-1 床下浸水開始時において外を歩くことに対する危険意識

11.7 床下浸水開始時における周辺住民との関わり

Point

- ・多くの住民が周辺住民の避難の様子について把握しており、特に西枇杷島町、新川町、名古屋市西区においては、半数以上の住民が近所の人への避難を認知していた。しかし、周辺住民の避難を認知していながら、避難の必要性を感じた住民は半数に満たない。
- ・避難を勧めた人は近所の人であったとする回答が多く見受けられる。
- ・避難の勧誘の有無と避難の必要性に対する意識との連動性は強く、勧誘を受けた住民ほど避難の必要性を感じている。

ここでは、床下浸水開始時における周辺住民との関わりを把握するために、図 11-7-1、図 11-7-2 で床下浸水開始時における近所の人への避難状況、図 11-7-3 で避難の必要性に対する意識と近所の人への避難状況との関係、図 11-7-4 で避難の勧誘の実態、図 11-7-5 で避難の必要性に対する意識と避難の勧誘との関係を見る。

- ・図 11-7-1 より、(d)名古屋市天白区を除いて 75%程度の住民は床下浸水開始時における近所の人への避難について把握しており、またその半数以上の住民が近所の人への避難を認知していたことがわかる。しかし、図 11-7-2 より、近所の人への避難と避難の必要性に対する意識との関係についてみると、近所の人への避難を認知しているにもかかわらず、避難の必要性を感じたとする住民は半数に達しておらず、避難を意識すらしなかった住民も多く存在している。
- ・図 11-7-3 より、床下浸水開始時において避難を勧めた人がいたとする回答の割合は地域により多少異なり、多いところは(c)名古屋市西区で 32%、少ないところは(d)名古屋市天白区で 17%程度である。避難を勧めた人は、全地域において近所の人であったとする回答が最も多く、(c)名古屋市西区、(d)天白区、(e)北区ではその割合が半数を超えている。
- ・避難の勧誘の有無と避難の必要性に対する意識との関係は明確であり、避難の勧誘があったとするほど避難の必要性を感じたという住民の割合が顕著に大きくなっていることが読みとれる。

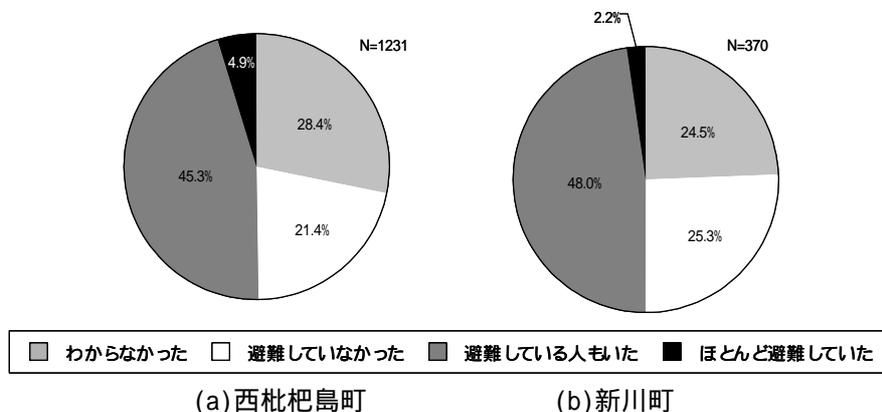


図 11-7-1 床下浸水開始時における近所の人への避難状況（西枇杷島町、新川町）

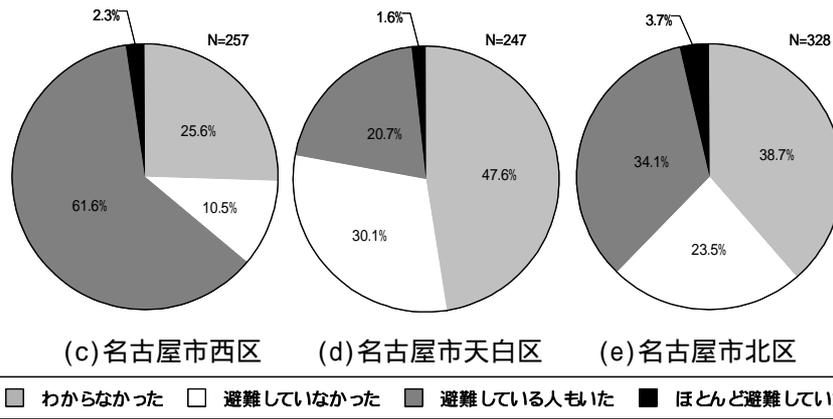


図 11-7-2 床下浸水開始時における近所の人々の避難状況（名古屋市西区、天白区、北区）

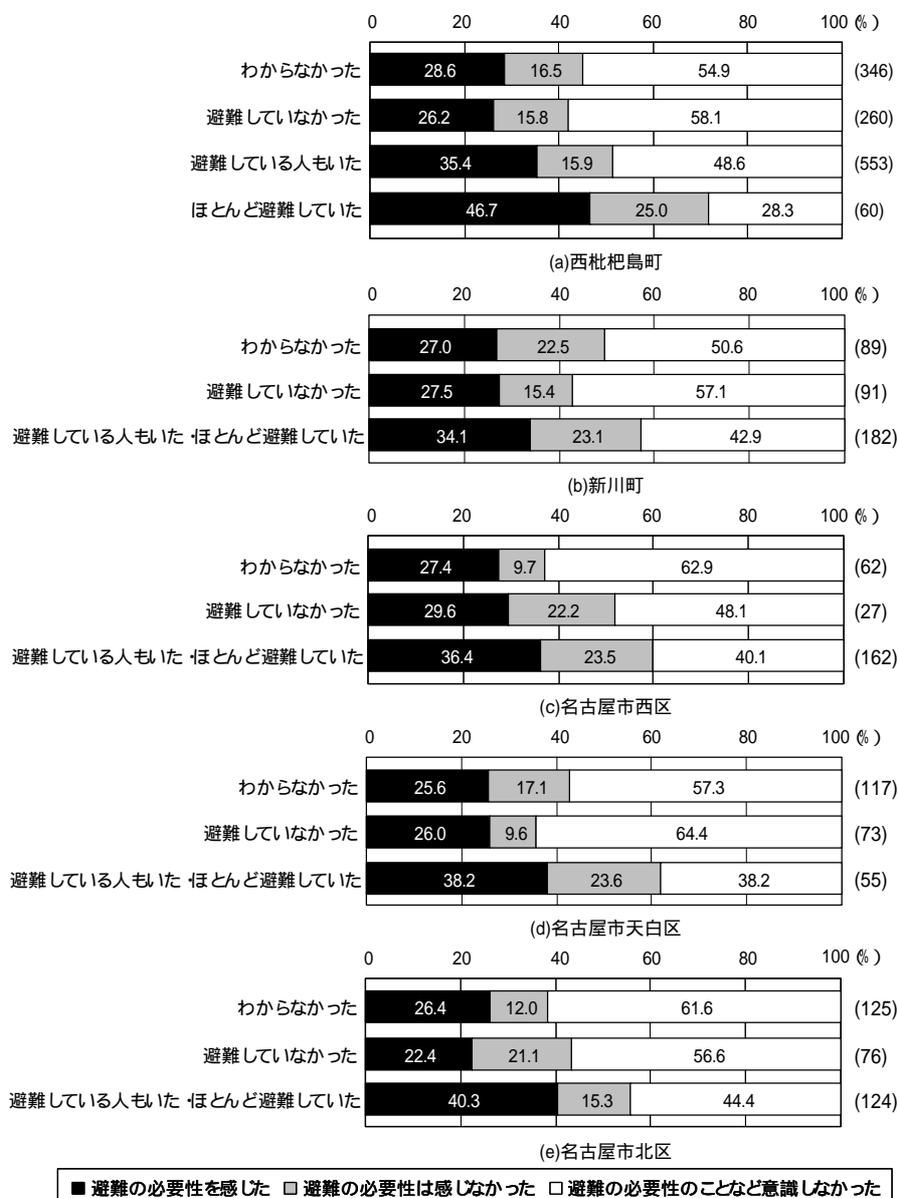


図 11-7-3 床下浸水開始における避難の必要性に対する意識と近所の人々の避難状況との関係

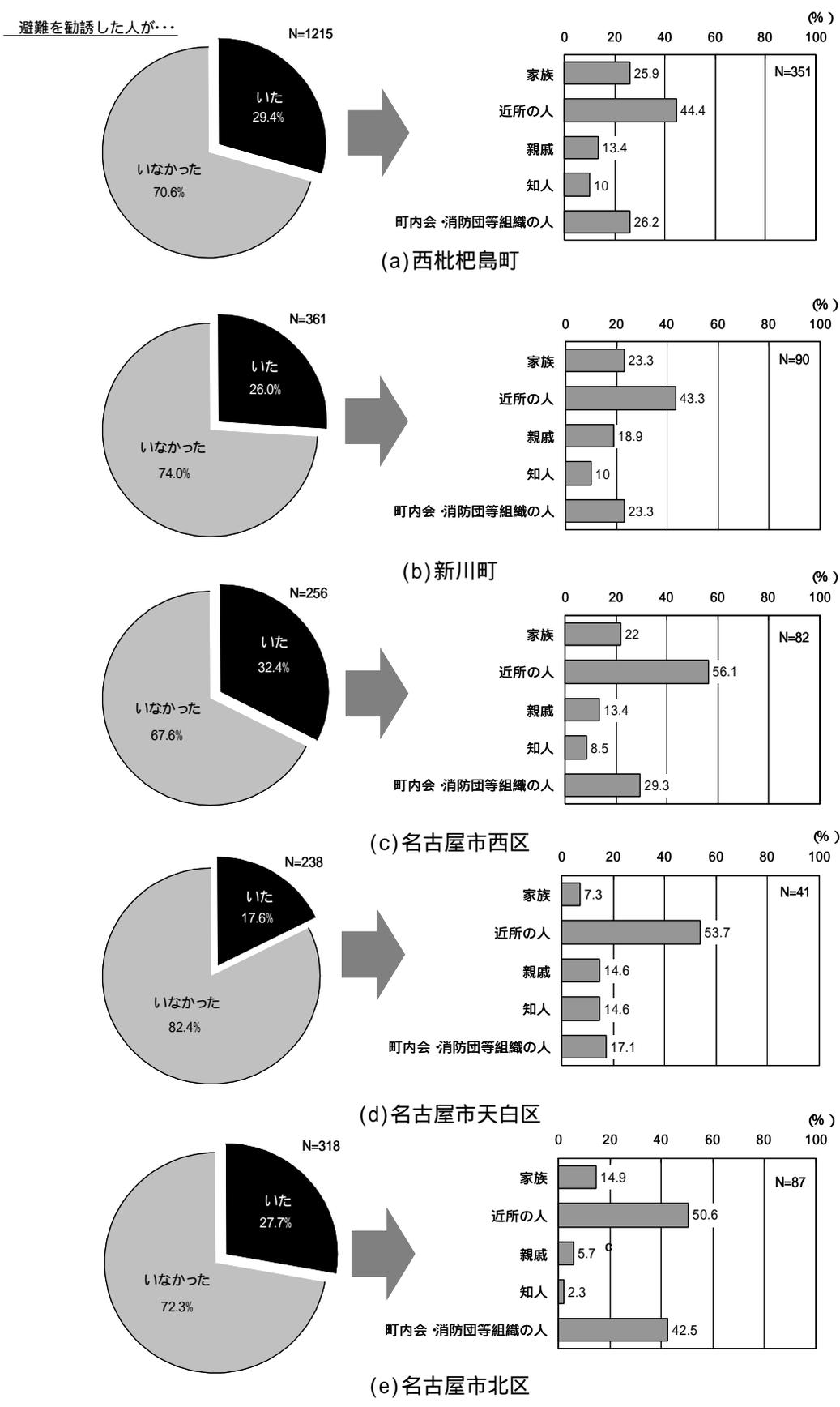
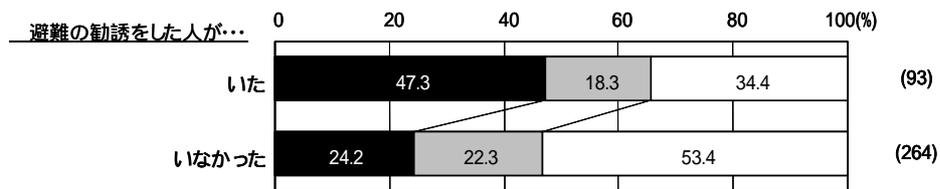


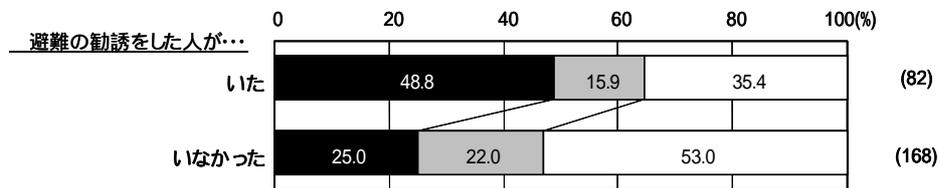
図 11-7-4 床下浸水開始時における避難の勧誘の実態



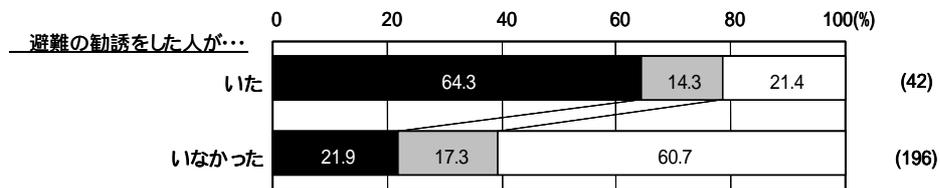
(a) 西枇杷島町



(b) 新川町



(c) 名古屋市西区



(d) 名古屋市天白区



(e) 名古屋市北区

■ 避難の必要性を感じた □ 避難の必要性は感じなかった □ 避難の必要性のことなど意識しなかった

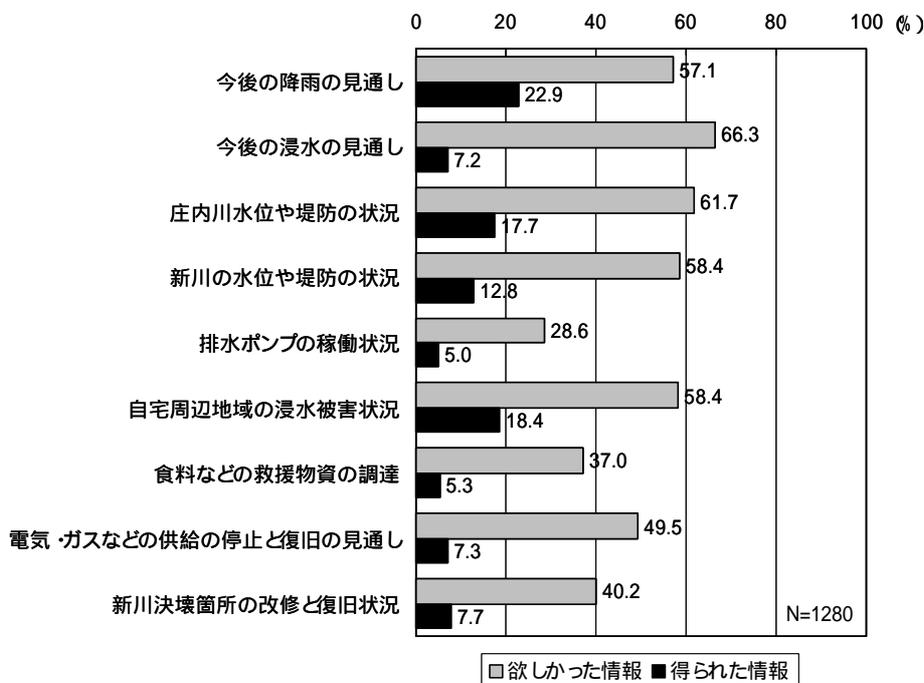
図 11-7-5 床下浸水開始時における避難の必要性に対する意識と避難の勧誘との関係

11.8 床下浸水開始時において欲しかった情報と得られた情報

<p>Point</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体を通し、降雨や浸水の進展の見通し、河川や浸水の状況に関する情報のニーズは高い。 ・新川町、名古屋市天白区においては、ポンプの稼働状況に関する情報のニーズも高い。 ・全ての情報について、ニーズに比べ、実際に取得できた割合は少ない。
---------------------	---

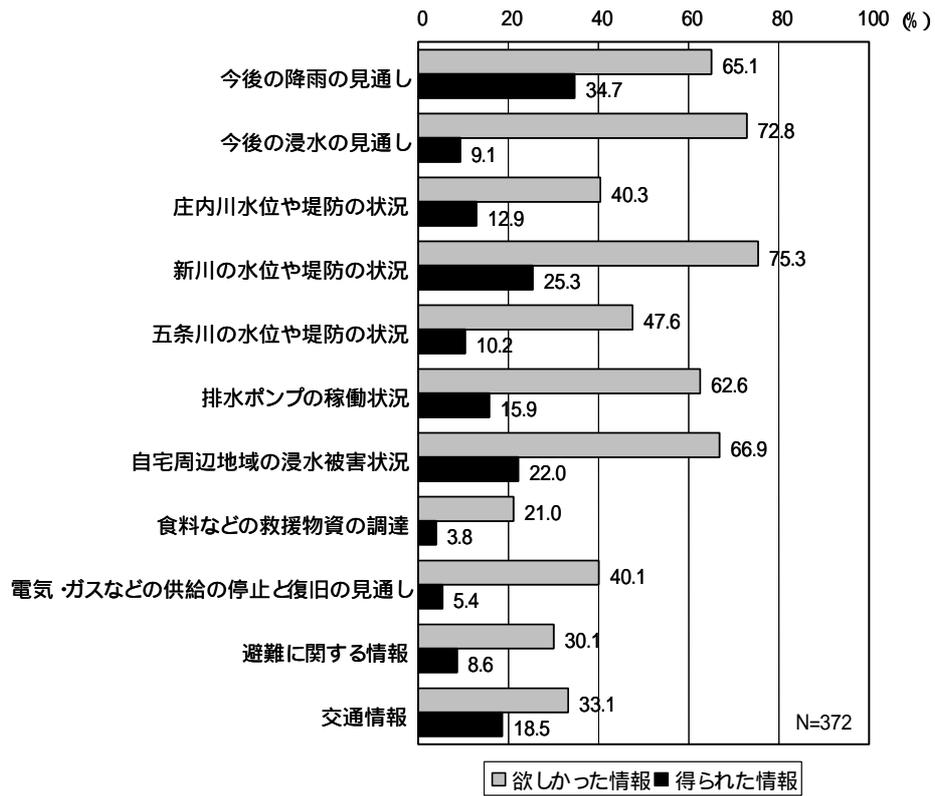
ここでは、床下浸水開始時に自宅にいた住民が欲しかった情報と、実際に得られた情報の実態を図11-8-1～図11-8-3に示す。

- ・避難勧告発令時ならびに豪雨時と同様に、床下浸水開始時においても、自宅にいた住民は気象情報や浸水の状況、河川の状況といった情報が欲しかったとする割合が高い。
- ・(b)新川町や(d)名古屋市天白区では、排水ポンプの稼働状況に関する情報ニーズが高い。しかし、いずれの地区も排水ポンプに関する情報は当時行政から発表されなかったことなどから、取得できたとする住民の割合はごくわずかである。
- ・変電所の冠水などで電気やガスの供給が停止していた(a)西枇杷島町や(c)名古屋市西区の住民については、それらライフラインの供給に関する情報のニーズも高くなっている。
- ・全地域を通じ、情報のニーズに比して情報を取得できたとする住民の割合は極めて少ない。

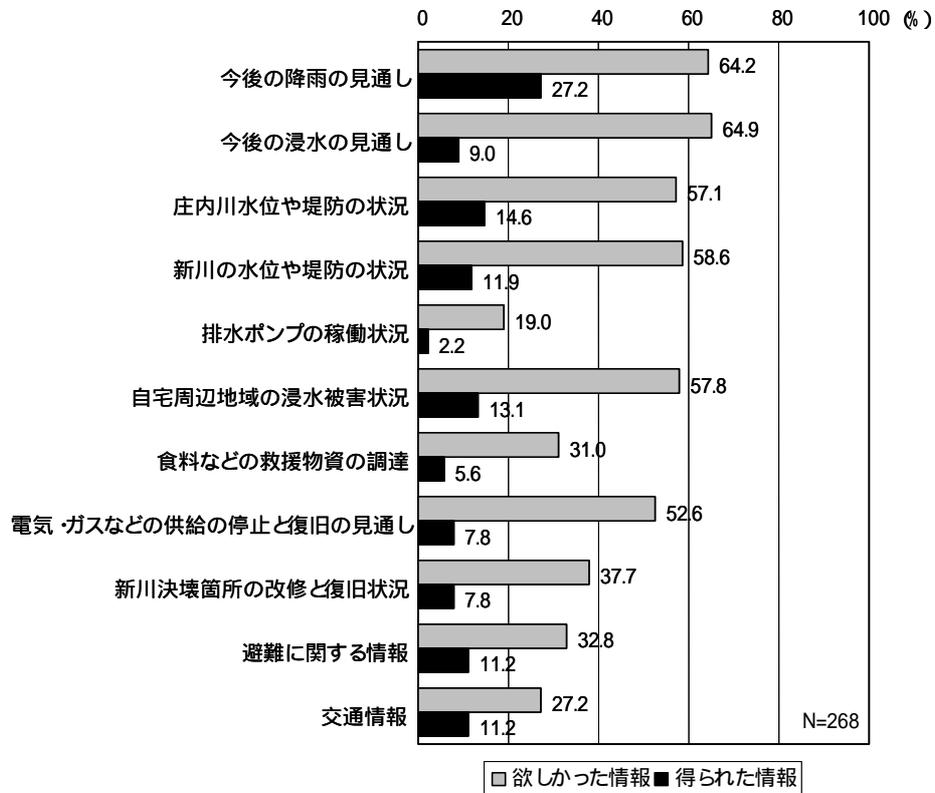


(a) 西枇杷島町

図 11-8-1 床下浸水開始時における自宅にいた住民の情報ニーズと情報取得実態

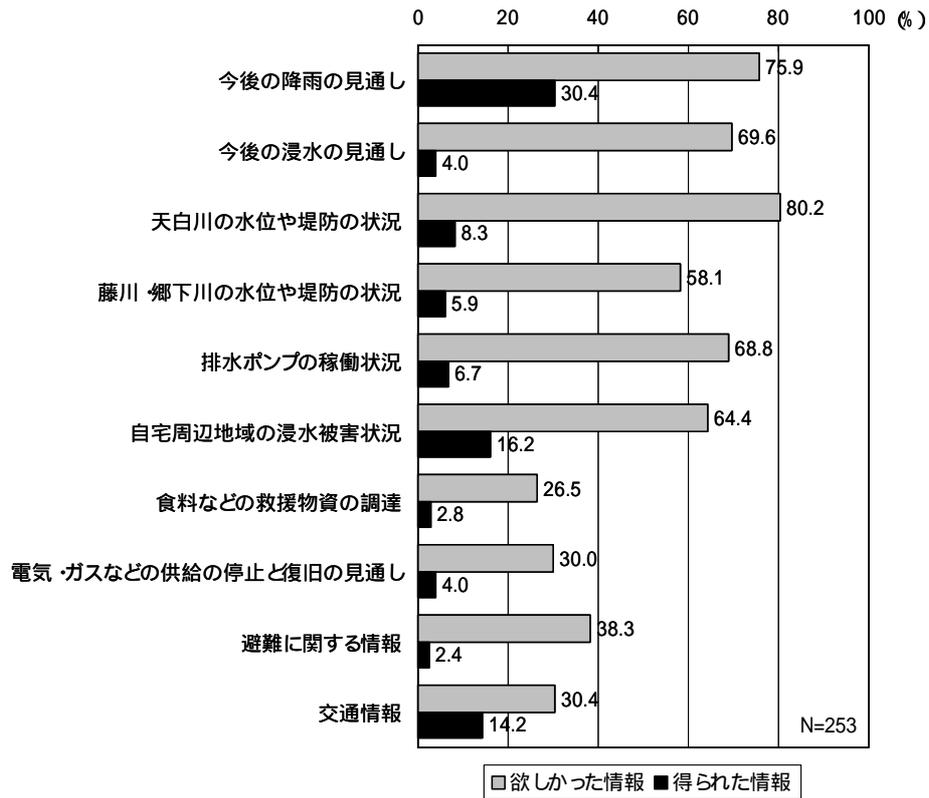


(b)新川町

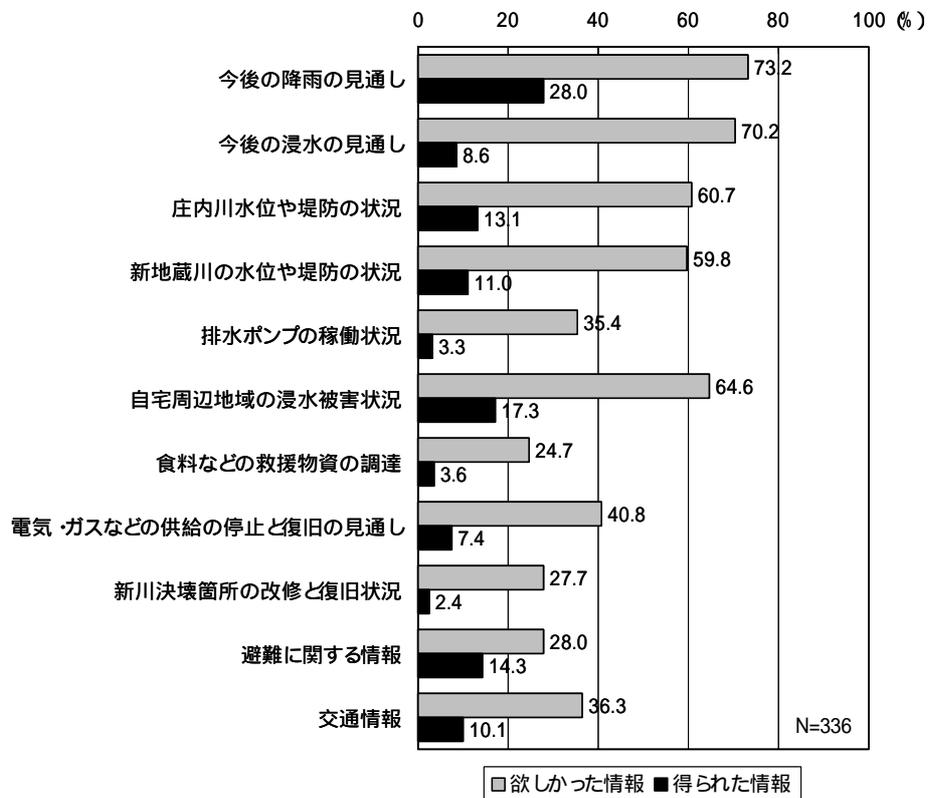


(c)名古屋市西区

図 11-8-2 床下浸水開始時における自宅にいた住民の情報ニーズと情報取得実態



(d)名古屋市天白区



(e)名古屋市北区

図 11-8-3 床下浸水開始時における自宅にいた住民の情報ニーズと情報取得実態